

やま だ

縦のつながりが育むもの

校長 佐久間 郁子

山田小学校では、縦割り班(にじいろ班)活動を取り入れています。発達段階の異なった子ども同士が関わり合うことで、子どもたちは多くのことを学んでいきます。上学年の子どもは、自分の考えや思いだけでなく、下学年の子どもたちのことを考えなくてはなりません。相手の思いを感じたりくみ取ったりして行動していきます。そうして、相手が喜んだり物事がうまく進んだりする様子を見て、満足したりこうすればもっとよかったと振り返ったりして成長していきます。下学年の子どもは、上学年の気遣いを感じてうれしくなったり、自分が上の学年になったときはあのように行動するとよいと学んだりして社会性を身に付けていきます。

9月22日(金)の「にじいろ班交流遠足(雨天案)」では、前半と後半に分かれて、班遊びと校内オリエンテーリングを行いました。6年生は班のリーダーとして、班遊びにと考えていた椅子取りゲームやハンカチ落とし、だるまさんが転んだなどをメンバーに提案します。それを受けて、班のメンバー全員で活動するのですが、ここで自分だけが楽しむのではなく、相手の気持ちを思いやる姿が多く見られました。椅子取りゲームでは、一つの椅子に二人同時に座ったとき下の学年のメンバーに譲る姿、ハンカチ落としでは、まだ落とす役になっていない人にハンカチを落とす姿。子どもなりに相手を気遣ったり全体を考えたりしているのです。校内オリエンテーリングでは、体育館やフリースペース等に設置されたボール渡しリレーや風船ヘディングなどを楽しむために、6年生は、どこから回るとよいか混み具合を見ながらメンバーを誘導していきます。リーダーとして、「次は、家庭科室に行くよ」と優しく言葉掛けをする姿、「みんな並んで」の言葉に、いそいそと列になるメンバーの姿。子どもたちの成長の姿に心温まります。

縦割り班活動は、日々の清掃でも行っています。ごみをまとめる場所を伝える姿、終わっていないところを手伝う姿。後期の縦割り班活動が10月13日(金)からスタートしました。新たなメンバーとの関わり

においても、こうした姿のよさを子どもたちも見て感じ、さらに広がっていくことを期待しているところです。